

学校名		福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価 (総合)	
学校長	ふりがな	みやざき しんすけ		(1)「新しいふくおかの教育計画 (後期実施計画)」および「福岡市立高等学校活性化に向けた取組方針 (第2次)」に則り、具体的方策の推進に組織的に取り組み、「都市型工業高校」を目指す。 (2)教育目標達成のため、学習指導、進路指導、生徒指導等に、各学科、各部、各教科、各種委員会が連携・協力した組織的・機能的な学校運営を行う。 (3)工業高校の「ものづくり」をはじめ、魅力ある諸教育活動を通してスペシャリストを育て、産業界や地域社会から求められ、期待される生徒を育成する。 (4)本校諸教育活動を通して、社会人として求められる挨拶や礼儀、マナー、言葉遣い、規律、自己表現力、コミュニケーション能力、公德心等を身に付けさせる。 (5)生徒の学力や能力を伸ばさせ、安心・安全に過ごせる学校生活を保障する。 (6)体罰・セクハラ防止、飲酒運転の厳禁、適切な情報管理、個人情報の保護などを徹底し、信頼される学校経営を行う。 (7)ユニバーサルデザインに基づく教育環境づくりや合理的配慮を含む特別支援教育の推進を行う。		(1)生徒会を中心とした挨拶運動・環境美化運動を継続し、規律を守り、自発的な判断・行動能力を高めさせ、諸行事の円滑化を図り、誇りを持たせる。 (2)教科指導を強化し、生徒個々の学力の向上を図り、進路実現に繋げる。また、教育課程および評価制度の点検および改善、ICT機器を活用した授業に取り組む。 (3)社会の一員として適切に行動できる生徒の育成のために、社会的な資質や能力・態度を身につけさせる。また、博工スタンダードとして「挨拶・身だしなみ・話を聞く態度」の確立に取り組む。 (4)生徒へ適切な就業観・職業観を養い、全ての生徒の進路実現に資する。また、新たな大学入試制度改革に備え、進学に関する取り組みを検証し改善を行う。 (5)部活動・ものづくりを通じて、個々の「人間力」「チャレンジマインド」の向上を図るとともに、各大会や競技会での上位入賞を目指し、活気ある学校づくりに取り組む。 (6)学科募集制度導入に伴い、各学科の特色を持った、工業技術「各種競技会・資格取得・ものづくり」の向上のために企業や大学等との積極的な連携や新たに知的財産教育等に取り組み、基礎から高度な技術まで身につけさせる。 (7)生徒・保護者との関わりをさらに深め、寄り添い、楽しい学校づくりのための人権感覚を養う。		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	宮崎 信介						B	B
校長本校在任年数	3年								
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	ふくしま さだあき						B	B
	氏名	福島 貞昭							

昨年度の成果と課題	◎成果:学校内部評価を通して、生徒の現状の把握と解決の方策を協議することができ、学校関係者評価により、今後の学校運営について貴重なご意見をいただいた。 ◎課題:次の課題が挙げられた。①家庭学習の充実 ②横断的な生徒指導・教育相談体制・生徒会・部活動の取り組み ③高い目標を持つ生徒の進学指導確立 ④専門性の高い資格取得指導の充実
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	授業規律の確立と学習する雰囲気を作る	授業アンケートを活用し、情報の共有化を図り、授業改善の工夫を行う 定期的な授業点検を行う	B C	授業アンケートの実施に伴い、各先生方への授業改善の取り組みは、一定の成果を上げることができたと思われる。しかし、一方では全先生方への実施まで行われていないので、今後も粘り強く続けていきたい。また、授業点検に関しては、定期的にまで実施することができなかった。 11月に行われたA事業の効果もあり、現在では、ICT活用による授業展開が各クラスで行われた。この流れを継続できるよう今後も先生方と研究協議を重ねていきたい。なお、引き続き評価基準に関する検討も考えていきたい。	B	生徒の学習意欲の向上を目指して、毎年職員研修を行い、指導技術の改善等が点検され、ICTの活用が授業で行われている。わかる授業の工夫が各教科で行われていて工業教育の特色・魅力作りに役立っている。	授業の規律と雰囲気は、「授業の中身」に連動する部分が多いと思われる。よって各教科の「授業の中身」こそが今後の課題でありこれからも研究する必要がある。よって、A事業後も研究授業や授業見学会等実施していきたい。
	授業改善と観点別評価基準の検討	ICT等を活用し、授業に興味を持って参加できる教材や考え方の工夫を行う 学習指導要領に応じた評価基準の検討を行う	A B				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	全職員、生徒会生活委員会による登下校指導 (挨拶・身だしなみ・自転車マナー) と風紀検査での徹底指導	B A	各学年LHRを通じて進路に関する取り組み・活動を実施することで、社会性・勤労観を身につけさせることができたと思う。今年度就職者の早期離職については残念ながら防止できていない状況である。学校としての取り組み、防止策を講じなければならないと考える。	B B	生徒たちに対する進路保障は学校の大きな課題である。従って、学校教育とりくみの集大成として就職・進学希望者ともに全員が進路実現できたことは立派である。就職者の早期離職者については心のあり方を含めて幅広い対応が必要である。	早期離職防止に向けて学校全体で早急に取り組む必要があり、就職指導では指導計画の見直し、また会社との連携ではこれまで以上に密にしていく必要がある。卒業生の追跡調査に努める。
	進路指導	確かな進路実現 (就職指導) 確かな進路実現 (進学指導)	正しい生活習慣と基礎学力を定着させた生徒を育成することで、企業との信頼関係を確立させる。キャリア教育の充実によって、早期離職者の防止に努める 生徒個々に応じた進路相談を充実させる 学校間 (大学・専門学校等) 連携の推進に努める				
特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会における諸活動の活性化 部活動生の意識向上と諸活動の活性化	A B	生徒会専門委員会においては、生徒会が中心となり、昨年度よりも活発的に活動ができています。校内分掌の先生方との連携も、学校活性化への一助となった。部活動生は昨年同様に行事等へ積極的に参加し、意欲的に活動できています。	B B	学校で生徒の主体性、活両を生み出すには、生徒会活動や部活動の活性化は是非、必要である。生徒の良さを引き出す指導を期待する。	校内分掌との連携を密にし、今以上の生徒会専門委員会における諸活動の活性化に努める。また、文化・運動部活動生徒の意識向上と諸活動の活性化に向けて生徒会を中心に取組を充実させていく。
	工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し 資格取得・各種検定合格率の向上	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る ものづくり競技会などでの成果を高め、ものづくり技術を地域や中学校へアピールする 資格取得プログラムを再検討し、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指す 資格取得指導を充実させるための、教員の資質向上を図る				
修学支援	生徒の自己実現に寄り添い、支援する 差別の現実から学びを深める	合理的配慮を推進し、特別に支援が必要な生徒に対するきめ細やかな支援を行う 各種奨学金をはじめ、新設された給付金制度への周知と理解を広げ、相談体制を充実させる 校外外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する 生徒会活動との連携を深め、屋形原特別支援学校との交流学習を拡充する	B B C B	特別に支援が必要な生徒に関して、それぞれ専門機関等につなげることができた。また、各種奨学金の周知については、生徒の自主的な進学希望のみならず、潜在的な進学希望も十分に考えられる。そういった生徒の進路保障が課題である。 校外外で実施されている研修会への参加状況について、各部署から幅広く参加ができていない。人推委員会を中心として、実態に応じた情宣をしていきたい。なお、本年度は生徒会活動との連携として学習委員会との活動を広げることができた。	B B	今後も教育相談や研修会を通じて、いじめ防止。学習支援、不登校、人権啓発等の課題について職員全体で理解を深め、実践できる必要がある。	平成30年度より、特別に支援が必要な生徒に対する通級指導が開始される。生徒・保護者との相談体制や支援計画を密にし、適切な合理的な配慮が行えるよう、教職員全体への周知を図りたい。

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度、A…目標を上回る達成度、B…目標どおりの達成度、C…目標を下回る達成度、D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。